

狂犬病予防注射のお知らせ

犬に年1回の狂犬病予防注射を受けさせないと法律で罰せられます。犬の健康のためにも、必ず予防接種を受けましょう。

町では、狂犬病予防注射を4月27日(火)に実施します。

当日は、犬を制御できる方が連れてきてください。制御できないと注射はできません。登録済みの方には、はがき(通知)が町から注射日前に個人あてに送付されますので、忘れずに持参してください。はがき裏面に犬の健康状態の問診がありますので、記入をお願いします。

月日	会場	実施時間
4月27日(火)	農村環境改善センター(沢海)	9:15~9:45
	農業構造改善センター(木津)	10:05~10:30
	二本木公会堂	10:50~11:30
	川根谷内公会堂	11:45~12:15
	小杉コミュニティセンター	13:30~14:00
	横越町役場	14:20~15:35

▼犬の登録・注射料金
登録済みの方ではがきを持参した人は、注射料金は3,100円です。

・新規に犬(生後91日以上)を飼う方は、登録・注射料金代合わせて6,100円です。

▼注意事項
体調の悪い犬は事前に獣医師に相談してください。

・犬が死亡したり、人に譲渡、転居等をした場合には、市町村役場へ連絡してください。

・今回の注射を受けられない場合は、はがきを持って動物病院で受けてください。

・フンの始末用にちり紙・ビニール袋等を持参してください。

▼国税モニターは皆さんと税務署のパイプ役
国税モニターは、みなさんと税務署のパイプ役として活躍しています。日ごろ感じているご意見やご要望を国税モニターにお聞かせください。

なお、風間静子さん(川根谷内 ☎38512072)が、今年4月から2年間の横越町のモニターとして選ばれました。

農作業賃金・作業料金のお知らせ

町農業委員会では、平成11年度の農作業賃金・作業料金の標準を、次のように改めましたのでお知らせします。

耕起	金額(円)	備考
耕作	10a 6,000	10a未済及び不整形の場合割増
代かき	10a 7,000	10a未済及び不整形の場合割増
機械あぜぬり	1m 30	間口 50円
田植	金額(円)	備考
育苗のみ	1箱 670	硬化苗
植付のみ	10a 6,500	10a未済及び不整形、軟弱田、傾伏田の場合割増。施肥田植機600円
苗持参	10a 19,000	〃
稲刈	金額(円)	備考
生脱のみ	10a 19,500	〃 (運搬費含む)
乾燥調整	60kg 1,650	
田作業	男女共1日 10a 7,000	賄いなし
畑作業	男女共1日 10a 6,000	賄いなし
動力ミゾ切り	1m 10	
精米	60kg 600	
梨授粉	日当 6,000	
梨袋かけ	日当 6,000	
梨剪定	日当 9,000	
梨鉄線張り	日当 9,000	
球根屋外作業	日当 5,200	

自然に親しむ親子の集い

▼期日 4月24日(土)・25日(日)
▼会場 新潟県少年自然の家(北蒲原郡中条町乙)
※中条駅と自然の家との間に送迎バスがあります。

▼内容 地引き網、山野草採りと調理、ブーメラン作り等
▼参加対象 小中学生とその親 100名
(定員になり次第締切ります)

4月資源ごみ収集日

地区	収集日
横越・川根谷内	13日(火)
	27日(火)
その他の地区	8日(木)
	22日(木)

2月資源ごみ収集実績

品名	実績
空きびん	6.4 t
空き缶	5.2 t
古紙	19.8 t
合計	31.4 t

▼申込・問い合わせ
新潟県少年自然の家
☎025414612224

ふる里物語

町史編さんだより 53

GHQが調査した 敗戦直後の横越の様子

「THE JAPANESE VILLAGE IN TRANSITION (過渡期における日本農村)」という標題の報告書があります。これは連合国総司令部(GHQ)天然資源局と民間情報局との協同企画で、農地改革が日本の農村組織や生活の分野に及ぼした影響を詳細に調査したものです。調査は、昭和22年6月から同23年12月までの約18か月間行われました。この中には横越村を含め、全国から13か村が選ばれておりますが、実によく調べてあるのに驚きます。

この大冊の中から、「横越村―特色ある素顔―」と題した項を、少し訳してご紹介します。

「横越村は越後平野の低湿地にあり、日本国内の最も集約的な米生産地の一つである。ほとんどの土地は、阿賀野川の堤防の側のほんの少しの草地を除いて農地である。土地の95%は、3分の2近くの水田を含めてよく耕作されている。」(中略)



GHQが撮影した横越村でのイモ畑の草刈り作業風景

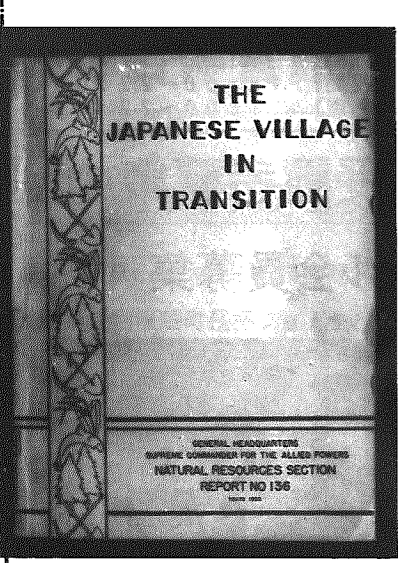
十戸組の制度は、数百年以前より残る最も重要なものであって、村の社会的構造の中の基礎的要素として存続している。経済的共同における基礎グループは、隣人たちの「農家小組合」である。田へ移植する早苗の大部分は、これら多数の小組合の参加によって、大きな共同苗代

この18か月間に起こった主な変化としては、全耕地の54%が

小作農に譲渡され、94%が自作農の所有となったことである。(以下略)

この報告書は、アメリカ国内の多くの学校や研究機関に頒布され、現在も外国人が日本近現代史を研究する上で、欠くことができない貴重な文献となっております。

「世界で紹介されたこの13か村も今では広域合併が進み、独立した自治体は、日本国内では横越町のほかもう一箇所しかないですすねえ」と、昨年5月と7月に横越町を調査に訪れたアメリカの日本現代史研究者も残念がっていました。(近現代部会 渡辺健策)



昭和25年に刊行されたGHQ天然資源局報告書第136号「過渡期における日本農村」

短歌

(公募作品)

雪の原越えて我が師の里のあり詩よみおらすか面影深し
八十五歳の母を乗せ我が車は雪降る街の医院へと駆く
冬庭に咲きつぐ山茶花花びらは舞い降る雪と共に土に映ゆ
寒椿幾つも咲かぬ葉の裏に小鳥見つけて花に口差す
乞いて鳴く冬鳥一羽思いやる妻は毎朝残り飯やる
田の神の鎮まり給ふ一山を包みて浄しえ朝の雪
阿賀の川遠くに見ゆる故里の杉の木立に霞漂う
静かな夜明けて窓辺に老松の雪つりの縄びんと張られて
露のとう滴みきた人の裾分よ春の心は微苦き香も
雪の中寒行僧は経唱え頭垂れば頭陀米濡れる

- 中 青 村 中 加 渡 佐 清 高 伊
- 木 川 藤 邊 水 谷 橋 藤
- チ ヨ イ 彬 マ ッ ノ 正 安 雅 一 吉
- 樹 ヲ ノ 喜 尚 衛 美 夕 夫 作